

## 山ぼうし

第44号 平成20年11月28日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代PTA会長盛合聡の揮毫）がある。



## 工業高校の展望

## 校長 兼 平 栄 補

工業高校は日本経済を支えている「製造業」の担い手を輩出している。そのために、基礎・基本をしっかり身につけさせる教育、同時に、実験・実習を重視した教育課程を中心に先端的な技術にも触れさせる教育を推進している。また、社会に出て企業の一員として重要である社会性、協調性などをあらゆる機会に教育している。

しかし、人材の供給による地域社会への貢献度等について社会的な認知度が不足している。また、「卒業後は出口が狭く、大学進学ができないのではないかな」等の進路選択に閉塞感がある。高校卒業後の進学率が向上している今、保護者は機会があればその夢を叶えさせたいと思っているのが現実である。これらのことが、中学校側の進路指導が輪切りになる一因となっている。

一方、社会的な問題となっている「フリーター、ニート」問題は工業高校では無縁である。それは、あらゆる機会を捉えて、しっかりとした職業観、勤労観の育成を図っている結果である。大学進学を叶えたからといって「フリーター、ニート」問題は解決しない。工業高校の教育は、この問題の解決にある光明を啓示している。

当宮古地区でも学校再編が行われるのは確実な情勢となっている。当地域での工業教育の存続は必須である。今後の工業教育の在り方にはさまざまな意見があるが、現実に即した取り組みにより将来に展望を開きたい。

第一は「ものづくり教育」を中心とした教育の推進である。

日本の将来は工業技術に立脚した国づくりによるしかない。資源のほとんどないわが国は製品の改良のみならず、付加価値があり、創造性にあふれた新製品を世に送り出すことで、繁栄を持続させることができ、その根源

が「ものづくり」である。工業高校で教える内容と現実の技術・技能はあまりにもかけ離れているが、工業高校は「若いときに身につけた手先の器用さは一生を忘れない」ことを基本に、技術・技能教育を推進していく必要がある。それと共に「工夫する習慣」の定着を図る必要がある。

第二は「一層の地域に根ざした学校づくり」の推進である。

現在、地域の産業まつりへの出展やインターシップなど地域とさまざまな取り組みを行っている。本校卒業生は地域の企業に就職する率が他校に比較し格段に高い。「地域の製造業を支える人材育成を地域の企業と共に連携して育成いく」というビジョンを前面に出し、一層の地域連携を推進していくことが重要である。

第三は「工業高校のPR活動」の推進である。

「どんなに頑張っても普通科志向を打破できない」というのは、マイナス志向である。普通科では体験できない教育内容、興味・関心に基づいた教育課程の推進、地域社会と共に取り組む事業など、工業高校ならではの取り組みに教員は自信を持つべきである。社会に対して、積極的に学校外に発信していくように、「いきいき宮工推進委員会」などによる組織的な取り組みを推進していく必要がある。

本校には宮古市の手厚い支援がある。宮古地域の産業振興のために、教職員・生徒一丸となって取り組まなければならない。

## 12月行事予定

12月	1日(月)	安全の日
	9日(火) ~ 13日(土)	2学年修学旅行
	18日(木)	ケイタイ安全教室
	19日(金)	建築設備科課題研究発表会
	22日(月)	授業納め式
	23日(水) ~ 1月12日(月)	冬季休業



# 校内体育大会

秋も深まる10月28日(火)～29日(水)の2日間、校内体育大会が行われました。球技はバレー・サッカー・バスケット・バドミントンの4種目を行いました。今回はそれぞれ部所属の選手を2名まで参加できるとしたので、キープレーヤーとしてチームを牽引し、どのチームも団結して試合に望んでいたのが印象的でした。トラック競技は、それぞれの選手がクラスの応援を背に受け、4競技を行いました。①「200mクラス走」、クラス全員200mトラックを走る競技だが、足の遅い生徒も自分のクラスの為に一生懸命走っている姿が印象的でした。②「綱引き」、優勝チームの機械科2年チームは、ボーナスポイントを賭け先生チームと対戦しました。結果のほうは善戦しましたが、先生チームのチームワークとパワーの前に屈する結果となりました。③「正副担二人三脚」、正副担のチームワークが問われるこの競技、混戦が予想されましたが、機械科一年の正副担コンビがダントツの1着と、その速さに驚きました。④「科最強リレー」、宮古工業でどの科が一番早いのか、第1走者の各科3年生の担任と、各クラス4名で編成し行われました。結果は電気電子科が第一走者でのリードを最後まで一度も譲ることなく逃げ切って1着でゴールしました。最終結果は、科対抗では電気電子科が優勝し、またクラス対抗では建築設備3年が優勝でした。クラスの団結が深まった校内体育大会となりました。



## 課題研・実践発表会行われる！

平成20年度、課題研究・実践発表会が11月21日(金)津軽石中学校・宮古第一中学校の生徒と先生方、約20名を招待して本校第一体育館で開催されました。

昨年までは岩手県工業クラブ連盟の県大会発表会が2月頃に行われていましたが、今年度より学校独自で取組むことになりました。本校では課題研究の成果や1年間実践した内容の発表機会を設定すべく、工業クラブ連盟の精神を受け継いだものとなっています。

課題研究は自分たちでテーマを考え取り組んでいく、問題解決型の授業で3年次に週3時間設定されています。

発表テーマは機械科『アイデアロボットの製作』、『ゴミ箱の製作～完結...そして進化～』 電気電子科『LEDディスプレイの製作』、『出前修理』 建築設備科『スターリングエンジンカーの製作』、『模型飛行機を飛ばそう』の6テーマで競われました。

審査検討の間には一心太鼓が披露され、この大会を盛り上げました。胸に響き渡るすばらしい演奏でした。

審査結果は最優秀賞に、建築設備科3年浜田優君他4名発表の『模型飛行機を飛ばそう』、優秀賞に機械科3年小平勇貴君他5名発表の『ゴミ箱の製作～完結...そして進化～』となりました。

最優秀賞は飛行機を飛ばし、上空での写真撮影に成功し測量への展開が評価を受けました。優秀賞はゴミ箱を設置し、喜んでもらった様子を、ゴミ箱の設置が歩行の邪魔にならないよう、折り畳み可能にしたことが評価されました。その他にも研究が継続されているものや、最新の電子化に取り組んだ内容でした。

発表者にとっても、貴重な体験となりましたが、堂々とした3年生の勇姿に、1・2年も、聴き入っていた様子は今大会の成功を示したものとなりました。

